

【教育庁】

常井委員 就学前教育と家庭教育を推進するための拠点として、「就学前教育・家庭教育支援センター」の設置を検討しているとのことだが、現在の進捗状況は。

大崎就学前教育・家庭教育推進室長 本年6月の全国調査によると17府県で幼児教育センターが設置されているが、その組織形態や役割は、各自治体の人口規模や幼児教育施設・小学校の数などにより異なる。本県には約500の公立小学校と約850の幼児教育施設があり、人材育成、保幼小接続、市町村における推進体制の構築支援などの機能が本県センターの柱になると考える。現在、どのような組織が最も効果的であるのか総合的に検討している。

常井委員 市町村教育委員会によっては幼児教育アドバイザーを設置しているが、現状は。

大崎就学前教育・家庭教育推進室長 昨年度末の時点で10市町村に設置されている。全ての市町村に設置されるよう、要請を行っていくとともに、しっかりとした研修を行い、アドバイザーの育成に取り組んでいく。笠間市は設置済み

常井委員 幼児教育アドバイザーは小学校と幼児教育施設の間をとりもつ良い役割を果たしており、全市町村への設置を働きかけていく上でも、県によるセンターの設置が必要である。いつ頃の設置を見込んでいるのか。

大崎就学前教育・家庭教育推進室長 現在、有識者や幼児教育関係者を集めた協議会で、組織や機能の在り方を議論しているところ。時期についてはまだ言及できない。

常井委員 保幼小連携の実が上がるよう、早期の設置を求める。また、保幼小連携をスムーズに進めるためには、小学校側からの、幼稚園や保育園に対するアプローチが重要であ

る。私の地元では、卒園式などの際に必ず小学校の校長先生が来て、子どもたちに話しかけてくれる園があり、それだけで子どもや保護者は非常に安心感を覚える。

管理職自らの行動は、他の教職員の意識も啓発する。子ども・保護者・先生の間で心の連携が図られることで、小1プロブレムの解決にもつながる。そのような仕組みをつくるためにも、小学校の校長、教頭などはもっと積極的に幼稚園や保育園を訪れるべきと考えるがいかがか。

大崎就学前教育・家庭教育推進室長 小学校からのアプローチは重要かつ大変有効であると認識している。昨年度から、幼児教育指導方針説明会には、幼児教育施設の管理職に加え、小学校の校長も出席し、幼児教育施設と小学校、両方の管理職の共通理解を図っているほか、今年度からは、新任の校長・教頭の研修で、保幼小接続、家庭教育についての理解を深める取り組みを進めている。さらに、現場の教員や管理職を含め、相互に授業参観、保育参観を行うなどの人的交流を進め、心の連携を図っていく。

常井委員 研修を進めることに加え、小学校の校長など管理職は、例えば卒園式に出席するなど、必ず一度は幼児教育施設に足を運ぶことを、通知で明確に求めるべきと考えるが、教育長の所見は。

柴原教育長 保幼小のみならず、中学・高校でも、高校・大学でも、相互に現場に足を運び互いに理解することはとても大切である。小学校の先生が幼稚園に行けば、喜んで迎えてくれる。来てくれたという思いが、連携の基本だと考える。通知も大事だが、心と心をつないでいく努力を地道に続けていきたい。

どこい洋治が見つけた地元の元気!



こころの医療センター前～友部IC間の拡幅工事



橋爪地区での県道大洗友部線の拡幅と濁沼川の河川改修工事

とこい洋治が推進している事業の進捗状況 (H30年12月)

笑顔大好き

Vol.84

発行者: 常井洋治 〒319-0205 笠間市押辺1745 TEL.0299-45-6818 FAX.0299-45-0818



本戸地区のクラインガルテンから吾国山の道祖神峠方面を望む。石岡市(旧八郷地区)と笠間市をトンネルで結び、さらに既設の朝日トンネルを通して、つくば～笠間間の交通利便性を強化し、通勤など生活道路としてはもとより、笠間市の観光や産業の振興を抜本的に進める道路にしたい。永年の懸案であり、旧笠間市時代に設置した看板はさびついでいますが、私は、笠間市の未来のために、新たに風穴を抜くトンネルの実現にチャレンジしていきます。(H30年12月)

「道祖神峠トンネル」実現で笠間の活性化を目指そう!!

茨城縦貫幹線道路(吾国山道祖神峠トンネル化)構想の推移 (茨城県議会議員 常井洋治 記)

- 1. 平成24年9月27日 県議会「東日本大震災復興・元氣ないばらきづくり調査特別委員会(西條昌良委員長、田所嘉徳副委員長)」での審議
[常井委員] 県南と県北の格差是正のため県央部を通る高規格道路の構想を打ち出すべきだ。
[桜井委員] 朝日トンネルができるが、道祖神峠を抜いて、常陸太田方面へもう1本、縦軸をつくるのが県北活性化のために重要である。
当日の委員会閉会后、関係議員と県土木部道路建設課長とが控室で、図面にこの道路路線を書き込み、その後の道路構想のベースとなった。
2. 平成24年12月21日 県議会「東日本大震災復興・元氣ないばらきづくり調査特別委員会(西條昌良委員長、常井洋治副委員長、田所氏衆議院選出馬による県議辞職のため副委員長に就任)」の調査結果報告書
項目4「人・モノ(情報)の往来を活性化するための取り組み」(P20)に「茨城縦貫幹線道路」が盛り込まれた。
広域交通ネットワークの整備
陸路のネットワーク強化
・本県発展の基盤となる高規格道路を含めた陸路のネットワーク強化を図るべきである。
・特に県北山間地域においては、発展の基盤となる広域的な道路整備が必要であり、つくばから笠間(道祖神峠トンネル化)を経由して大子方面へ向かう「茨城縦貫幹線道路」などの高規格道路等、新たな交通軸についての検討を含め、道路整備を一層推進し、産業振興を図り、過疎化などの喫緊の課題解決に繋げていくべきである。
3. 平成26年9月8日 笠間市議会議員らと、県知事へ要望
県道笠間つくば線の道祖神峠(本戸地区)トンネル化を橋本知事(当時)に要望した。笠間市議会議員全員の賛同署名の要望書を小園江一三市議会議長、取りまとめに当たった大関久義議員らと提出した。(私常井洋治のほか、桜井県議、村上県議、館県議も同席) 私と大関議員で要望を提案。橋本知事からは、地元負担軽減のため、合併特別債の活用が提案された。
4. 平成28年3月28日 茨城県総合計画への道路構想の記載
橋本知事のもとで策定された、県総合計画「いばらき未来共創プラン」における本県将来構想図の中に、構想道路として盛り込まれた。
5. 平成30年11月16日 新たな茨城県総合計画への道路構想の記載
大井川知事のもとで、新たな「茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～」が策定され、同路線が将来構想図の中に記載されるとともに、計画の中に「茨城縦貫幹線道路」と明示の上、盛り込まれた。
政策20(茨城縦貫幹線道路関係)
つくば経済圏と県央・県北地域の広域的な交流を促すため、つくばエクスプレスの県内延伸や(仮称)茨城縦貫幹線道路(つくば～笠間～大子)の整備に向けた検討を進めます。
6. 茨城縦貫幹線道路(つくば～笠間～大子)の整備方針を検討するため、平成30年度県予算で調査を実施中

私常井洋治は、報告書への同路線の記載に 副委員長として尽力しました。
私常井洋治は、県議会「新しい茨城づくり調査特別委員会」委員として、そして県議会副議長として、この道路整備をきちんと計画に明記すべきと提言しました。その中で、特に重要である吾国山の道祖神峠トンネル化を、今後も強く主張し、推進してまいります。

